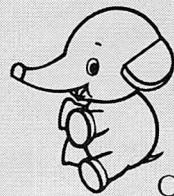


平成31年度

一般用医薬品セルフメディケーション

調査研究・啓発事業等 報告書

(NO.14)



**OSPF**

OTC Self-Medication Promotion Foundation

公益財団法人 一般用医薬品セルフメディケーション振興財団

# 小中学校における「おくすり教育」推進ワークショップ

一般社団法人 日本くすり教育研究所 理事

ふくだ さなえ  
福田 早苗

# 小中学校における『おくすり教育』推進ワークショップ

一般社団法人 日本くすり教育研究所 啓発事業実施者氏名 福田 早苗

住所：〒188-0014 西東京市芝久保町4-6-19 電話番号：042-468-6347

[日中は勤務先：042-462-5118 (三洋薬局)]

## 1、啓発事業実施目的

セルフメディケーションを推進していく上で、一般消費者の医薬品適正使用に対する認識を深めることが重要課題になっている。この課題に対し、小平市薬剤師会と小平市学校薬剤師会が取り組んだ小中学校での『おくすり教育』が小平市立小中学校の全校で行えるようになり、各方面で高い評価を受けている事例が一つの成功例として関心がもたれている。しかし、このような取り組みは限られた地域のみでの活動ではなく、全国的に展開することにより多くの児童生徒、そしてその保護者に至るまで、医薬品の適正使用に関する基礎知識の向上、および薬剤師の職能啓発を行っていく必要があると考えている。

そこで当研究所としては、このような活動の拡大を目的として、まず小平市の近隣の地域より『おくすり教育』に強い関心を持ち、活動を展開していきたいという高い意識を持つ様々な職種の方を募り、『おくすり教育』の推進のための方策と人材育成を目的とした実践的な研修会を開催することとした。

## 2、啓発事業実施方法および内容

### 2-1 『おくすり教育検討会(拡大版)』の開催

- ①『おくすり教育検討会(拡大版)』を開催するにあたり、西東京市薬剤師会の米澤裕二氏、東久留米市薬剤師会の中島正登氏、そして日本くすり教育研究所代表理事である加藤哲太氏にも加わっていただき啓発事業企画運営委員会を立ち上げた。
- ②多摩小平保健所管轄内の5市(清瀬市、小平市、西東京市、東久留米市、東村山市)を中心に、各薬剤師会や学校薬剤師会へ呼びかけて『おくすり教育』に関心があり、その実践や推進に意欲のある方々に集まっていた。『おくすり教育』の啓発活動や実践内容について紹介し、その必要性を再認識していただくとともに、実践方法についても学んでいただく内容とすることとした。また、薬剤師のみならず関心のある学校関係者へも各校の学校薬剤師よりご参加の要請をしていただくようお願いし、ご臨席いただくこととした。

当初は実践的なワークショップを予定していたが、参加者の現状を鑑み、パネルディスカッション形式の検討会と、実践されている方の活動報告を主とした検討会の2回を実施した。

## 2-2 小中学校における『保健だより』の素材作成

以前からの課題であった保護者への医薬品適正使用に関する情報提供やその啓発方法のひとつとして各校で養護教諭が作成する『保健だより』を活用させていただくことを提案していた。しかし、今回の企画に対しても薬剤師と養護教諭が一堂に会し、議論をすることは設定日時などの関係より困難であることもあり、養護教諭への情報提供や活動意図の説明が不十分であり浸透されずにいた。

そこで、そのまま掲載していただけるような素材を薬剤師が作成し、利用しやすいように提供することを試みようと考えた。冊子媒体ではその後のブラッシュアップが困難なため、創新社のご協力を得て『日本くすり教育研究所』のサイト内に『保健だよりの素材』としてのコンテンツを設け、その啓発のためにサンプル集を冊子として作成することとした。(別添資料3)

## 3、啓発事業成果

### 3-1 『おくすり教育検討会(拡大版)』の開催

9月12日は基調講演に続きパネルディスカッション形式、2月13日においては基調講演後は実践者の活動報告という異なる形態で2回の『おくすり教育検討会(拡大版)』を開催することができ、参加延べ人数は87人であった。参加者にはいずれの回も大変ご好評をいただき、“おくすり授業”などの経験者にとっては授業の構成や手法の工夫が参考になり、自身のスキルアップにつながったとの声が聞かれ、これから取り組もうという方にとっては学校関係者への授業導入のためのアプローチ方法や実際の授業のイメージを掴むことができ一歩踏み出す意欲につながったとの感想をいただいた。また、両者ともセルフメディケーションにおける医薬品の適正使用への取り組みは、薬物乱用防止においても必要な活動であり、連動して行っていく必要があるということを深く認識していただけた。

(資料1、2に当日の議事録《抜粋》、アンケート集計を添付したのでご確認いただきたい。)

### 3-2 小中学校における『保健だより』素材作成

①『日本くすり教育研究所』のホームページを運営している創新社に委託しトップページに『保健だより』に使える“学校薬剤師からのひとこと”のバナーを貼っていただいた。そこから保健だよりの素材を入手できる新コーナーを開設し、現在、20余りの素材を作成し掲載した。今後さらに医薬品の適正使用や健康管理、セルフメディケーションに関する情報を中心に、保健だよりや保護者あての情報提供用のプリントに使用していただけるような素材を追加し

たり、利用者のリクエストにも応じて素材を作成したりするなど、継続的にコーナーのブラッシュアップを図りたいと考えている。

- ②この新コーナー開設の啓発のためにサンプル集を現在制作中。完成次第、学校薬剤師、養護教諭をはじめとする学校関係者に配布し、積極的に『日本くすり教育研究所』サイト内の『保健だよりに使える“学校薬剤師からのひとこと”』より素材を入手し活用していただけるように働きかけたいと考えている。

#### 4、考察及びまとめ

- ①今回開催した2回の『おくすり教育検討会(拡大版)』を通して、参加者へは医薬品の適正使用に関する啓発活動を行っていくことの必要性をこれまで以上に強く感じていただくことができた。と同時にそれぞれの取り組み状況や意識に差があること、地域や環境により様々な課題があることなども分かった。しかし、このような会を継続することにより同じような課題を攻略した経験談の報告を聞くことができたり、問題を共有したりすることによって新たな活動展開の糸口が見えたり、打開策のヒントを得たりすることができるのではないかと考える。参加者からも継続して行って欲しいとの要望も多く、今後も1年に1回程度のペースで同様のイベントを開催したいと考えている。
- ②以前より課題となっていた保護者への医薬品適正使用に関する啓発活動において、養護教諭が作成する保健だよりを活用させていただくことを提案していたが、今回それをさらに一歩踏み込んだ形で活動展開できたのではないかと考えている。ご多忙な日常業務の中で新しいテーマの情報を正確に、かつ分かりやすく加工することは困難なことなので、そのまま使ってもらえる素材があればきっと活用していただけるものと期待している。今後はこのコーナーの啓発に努めるとともに、サイトに寄せられる要望に応えつつ内容のより一層の充実を図っていきたいと考えている。そして、保護者を中心とする一般消費者の医薬品適正使用に関する認識や、セルフメディケーションへの意識の向上につながる活動となることを心より願っている。

#### 5、資料の添付

- ・資料1-① 第1回『おくすり教育検討会(拡大版)』議事録《抜粋》
- ・資料1-② 第1回『おくすり教育検討会(拡大版)』アンケート集計結果
- ・資料2-① 第2回『おくすり教育検討会(拡大版)』議事録《抜粋》
- ・資料2-② 第2回『おくすり教育検討会(拡大版)』アンケート集計結果
- ・資料3 『保健だよりの素材』作成：『日本くすり教育研究所』ホームページ
- ・資料4 『保健だよりの素材』作成：学校薬剤師が提案する『保健だより素材』サンプル

最後になりましたがこのたびの活動に際しまして、多くの方々にお力添えをいただきましたことに感謝いたします。

また、充実した活動をさせていただく機会を与えてくださいました公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団に対しまして、心より深謝いたします。

## 『おくすり教育検討会（拡大版）』議事録

資料1-①

日時：令和元年9月12日（木）20:00～22:00

場所：多摩小平保健所 講堂

（司会進行 福田早苗）

（議事録作成 三宅暁子）

### 《 次 第 》

（敬称略）

1. 開会の辞  
啓発事業企画運営委員 中島 正登
2. 保健所の立場から  
多摩小平保健所 生活環境安全課長 福田 洋之  
・薬の正しい知識を身につけ、理解を深めるための教育が必要。違法薬物を決して使用しないという薬物乱用防止の推進にも効果があると考えている。小平市のお薬教育を多くの地域で共有し、取り組んでいただきたい。検討会がさらなるお薬教育の推進に資することを願っている。
3. 【講演1】 医薬品の適正使用と薬物乱用防止  
国立精神・神経医療研究センター  
依存性薬物研究室室長 船田 正彦  
・本日は処方薬（向精神薬）、市販薬の乱用問題について考えたい。  
・薬剤師はメーカー等などから正しい、最新の情報を努めて集めていかなければいけない。適正使用には薬剤師だけでなく、医師、患者との関係性が重要。効果、副作用についての情報収集が大切。  
・薬物関連疾患の調査より、覚醒剤は変わらないが危険ドラッグは所持犯ができて減少。今では持っていても罪にならない処方薬の乱用が主流になってきている。  
・10代では市販薬の割合が高いが20代以降では睡眠薬、抗不安薬が増える傾向。市販薬ではブロムワレリル尿素含有のもの、処方薬ではベンゾジアゼピン受容体作動薬（BZP）が主である。  
・BZPに対して非BZPがあるがどちらもベンゾジアゼピン受容体作動薬である。化学構造の違いであり作用点は同じ、非BZPは安心と誤解している患者もいる。  
・BZPは作用時間が短い薬が乱用されやすい（覚せい剤や麻薬も同様）。  
・BZPは不安、不調や苦痛の緩和のために使われているのが覚醒剤や麻薬と違う点。長く使っていると離脱症状がみられ、用量、用法を守らずに使用する。原疾患が治っているのか見極めずに漫然と使用している状態には注意が必要。  
・BZPの減量は難しく、慎重に時間をかける必要がある（年単位で）、医師との連携が重要。乱用していると思われるケースは声掛けから対話へ、相談援助機関や薬物専門の医療機関へつないでいくことが大切。  
・薬物乱用防止教育では早期発見、早期介入で回復を目指し、専門機関への相談ができること等伝えることが重要。
4. 【講演2】 薬剤師がかかわる“おくすり教育”  
日本くすり教育研究所代表理事 加藤 哲太  
・平成20年の中教審答申：学校薬剤師が保健指導においても専門性をいかし貢献していることが評価され、医薬品に関する適切な知識を持つために更なる貢献をすることが期待されている。  
・薬物乱用について色々な団体関わっているが、市販薬、向精神薬やスマートドラッグ等については薬の専門家として薬剤師の働きが必要。  
・資料、教材の基本は学習指導要領。日本学校保健会、日本くすり教育研究所のHPを参考にして欲しい。  
・養護教諭との協働で振り返り学習をしたい、保健指導に生かしたい等の要望が出てきた。  
・中学校ではクラスごとに行い評価することが必須となっているが、薬剤師の負担が大きい。  
・添付文書等を教材に教員が授業を行い質問、疑問を出してもらっておき、その後に薬剤師が複数のクラス（合同）で授業、解説するパターンなど検討中。各校にあったものを考えていく必要がある。  
・これからのくすり教育の課題：養護教諭、他の教員との協働、養護教諭のスキルアップ、保護者への啓発

## 5. パネルディスカッション

～ 薬剤師が“おくすり教育”を実践する上での問題点について ～

パネリスト 日本くすり教育研究所代表理事 加藤 哲太  
国立精神・神経医療研究センター  
依存性薬物研究室室長 船田 正彦  
座長 日本くすり教育研究所理事 福田 早苗

事前アンケートにより、授業の経験のある方が多くなっていると感じた。今後、授業に取り組みたい、内容を充実させたい等熱意のある方がお集まりなので、困っていることなど積極的にお話しいただきたい。(福田)

- ・船田先生の資料の出典は？(堀内)  
⇒すべて報告書として開示。国立精神・神経医療研究センターのHPから薬物依存研究部にアクセス。(船田)
- ・処方薬の乱用が増えているというのは興味深かった。事例があれば教えてほしい。(堀内)  
⇒危険ドラッグが出てくる前は二位であったので急に増えてきたわけではない。BZPを中心とする処方薬をきれいな人が多いという現実はずっとあった。他には複数の違う診療科を受診して薬を集めるという例あり。(船田)
- ・ダルクの方から、覚醒剤をぬく過程で向精神薬を使ったが、合法的に薬がもらえるため、向精神薬の依存症となりそこから脱却するのが大変だったと聞いた。私がお薬教育に取り組むようになったのは、OTC(ブロムワレリル尿素)の乱用者に会ったことがきっかけ。小学校に薬物乱用防止教育もするが薬の正しい使い方の話もさせてほしいとお願いしたところから小平のお薬教育が始まった。(福田)
- ・BZPの注目すべき点は過量に服薬することで自殺に対する不安も隠れてしまい自殺してしまうような例もある。ゲートキーパーとして薬剤師は最前線にいる。薬物乱用のみならず自殺も大きな問題として検討の必要あり。(船田)
- ・お薬の授業はできても、薬物ことは他の団体等が行っておりなかなか入れないこともある。各校に合ったやり方を考えていかないといけないので情報提供をお願いしたい。(加藤)
- ・小平のおくすり教育は加藤先生の協力により徐々に広がり、各校の担当者ができるようになってきた。はじめは経験者にサポートしていただきながら自信をつけ、養護教諭と相談し行うようになった。(福田)
- ・豊島区のお薬教育は故田中先生がはじめられたがなかなか他にできる人がいなかった。今回、加藤先生のサポートを受けて6年生2クラスに授業を行うことができた。(林)
- ・どこに行っても一人でなく一緒にするという形。薬剤師、養護教諭によって異なる授業になる。(加藤)
- ・小平のお薬教育の歩み：加藤先生の協力、セルフメディケーション振興財団の助成対象事業となり助成金を頂いたことが大きい。これにより小中学校でお薬の正しい使い方の標語を募集し、優秀な作品をポスターにして市内の公立小中学校や会員薬局、保健所・市役所など市内の公共施設にも掲示。続いて集めた標語を利用してお薬手帳を作成。学校薬剤師だけでなく周囲の方々も巻き込むのが効果的。次第に薬物も頼まれるようになり、スキルアップのために船田先生に講演を依頼したことがきっかけで現在に至っている。(福田)
- ・大麻など外国では認められているのになぜ日本ではダメなのか、海外の現状はどうかを子供たちに聞かれたときに説明できるバックグラウンドを持っていることが重要だと思う。(船田)
- ・学校から発信するくすり教育(2013年9月学術大会)について、小平での実践内容と課題を口頭発表した。(照沼)
- ・くすり教育について保護者に話すときに子供たちとは違う点を教えてほしい。(堀内)  
⇒子供の用法、用量等の知識、子供の行動を注視すること、親子共通の話題にしてほしいことを付け加える。(加藤)
- ・青少年育成委員からの依頼により保護者に話をした。やはり親が目を離さないこと、中学生くらいでは親よりも知っている可能性があると話した。スマートドラッグや小児用量についてもふれたが知らない親もいた。(小田)
- ・小金井市では活動している薬剤師が少ないためなかなか実行できない。2年に1回位、薬物乱用防止教育やPTAにお話をする程度。将来的にどう活動していくべきか本日の話を聞きながら考えた。(高山)

## 6 閉会の辞

啓発事業企画運営委員

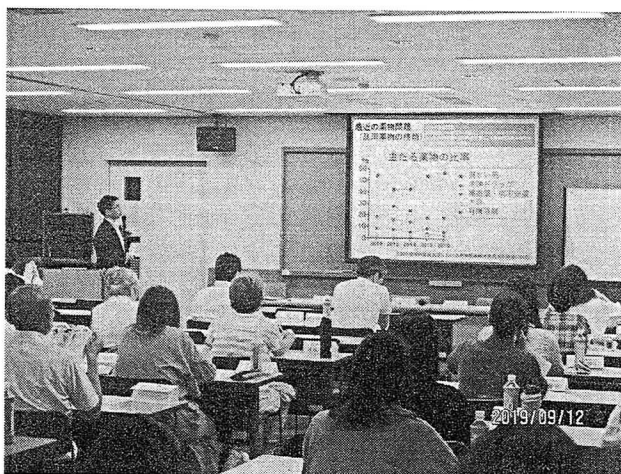
米澤 裕二



『おくすり教育検討会（拡大版）』

令和2年9月12日

於：多摩小平保健所 講堂





## 第1回『おくすり教育検討会（拡大版）』アンケート集計

## 参加者状況

所属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計
参加者	15	1	5	5	9	2	3	1	1	4	3	49
アンケート回収枚数	8	1	4	4	9	2	3	1	1	3	2	38

## 0 事前アンケート

所属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	合計 (48人中)	
薬の正しい使い方のみ	4	0	0	0	1	0	1	0	0	2	8	17.4%
薬物乱用防止のみ	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	7	15.2%
薬・薬物両方	9	1	1	1	7	2	0	0	1	1	23	50.0%
授業経験なし	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	6	13.0%
記載なし	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2.2%

## 1 本日の“おくすり教育検討会（拡大版）”は参考になりましたか。

所属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計	
参考になった	7	1	3	4	9	2	3	1	1	3	2	36	94.8%
まあ参考になった	1	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	1	2.6%
(考えさせられた)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.6%
参考にならなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%

## 2 来年度以降、五市合同お薬教育検討会の開催は必要だと思いますか。

所属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計		
必要	年一回	5	1	4	3	7	2	2	1	1	2	2	30	78.9%
	2年に一回	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	7.9%
	その他 (1回/ 2~3年)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1回以上/ 年)	0	3	7.9%
必要ない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
記載なし	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5.3%	

● 期待する内容

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計	
教材について	4	1	4	3	8	1	3	1	1	1	1	28	73.7%
授業の進め方	2	1	4	3	7	2	2	1	1	1	2	23	60.5%
導入へのアプローチ	0	1	0	0	4	1	3	1	1	1	0	12	31.6%
マンパワーの確保	2	1	0	0	0	1	1	1	0	2	0	9	23.7%
各地での取り組み	4	1	2	0	1	1	0	0	1	2	0	12	31.6%
“おくすり教育”の課題	5	1	3	1	2	0	1	1	1	3	1	19	50.0%
その他	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	7.9%

- その他として
- ・最新情報
  - ・実際にどんなんことをやったかの実例を知りたい。（実際の授業内容）
  - ・アクティブラーニングについて

3 ご意見、ご感想などございましたらぜひお聞かせ下さい。

- ・小平のおくすり教育の足跡がわかって、面白かったです。  
小平の学業にとっては、いつもの事です。他市の方々にとってははかなり有意義な会になったと思います。
- ・本日はありがとうございました。（3）
- ・今年度、初めて学校薬剤師をすることになり、参加しました。  
実際に学校で授業をしている方々の話が聞けてとても良かったです。
- ・本当に熱さが伝わってきました。ありがとうございました。
- ・最近 2018 年の薬物乱用の状況、乱用されていた睡眠薬・抗不安薬などがわかって勉強になりました。
- ・薬物乱用についての授業のデモンストレーションをお願いしたいです  
HP の紹介もありがたかったです。ところどころ何の話をしているのかわからないところがありました。
- ・処方薬や市販薬による乱用が問題であることに気づかせていただき、大変な学びがありました。  
薬物乱用とおくすり教育には切っても切れない関係であると学びました。
- ・大変参考になりました。  
子供たちへの教育のみならず、高齢者への指導にも役立てると思いました。ありがとうございました。
- ・立川保健所の方でも今年度は、薬育に力を入れていくとのこと。参考にさせていただきます。
- ・いつもありがとうございます。一步一步、少しずつでも前に進めていきたいと思います。
- ・次回も期待しております！ まずはトライ！ 頑張ります。  
これからもどうぞ宜しくお願いします。ありがとうございました。
- ・とても参考になりました。持ち帰って少しでも実践できればと思います。  
次回ありましたら、また参加したいと思っております。

日時：令和2年2月13日（木）20：00～22：00

場所：明治薬科大学サテライトキャンパス

（司会進行 福田早苗）

（議事録作成 中村幸世）

## 《次 第》

（敬称略）

1. 開会の辞 啓発事業企画運営委員 米澤 裕二
2. 小平市教育委員会教育長より 小平市教育委員会 教育長 古川 正之
  - ・平成29年2月に小平市内の小学校で食中毒が発生した。対応に対し、薬剤師会、医師会に相談したところ「給食の停止」「校内の消毒」の助言があり、日頃から良好な関係であることの重要性を感じた。
  - ・最近、著名人の薬物使用による逮捕のニュースが増えた。薬物に対する間違ったメッセージが子どもたちの間で広まらないことを願っている。
3. 保健所の立場から 多摩小平保健所生活環境安全課統括課長代理  
（薬事指導推進担当） 光川 篤志
  - ・「薬物乱用防止」については、FM西東京に出演やHPを通し、市民に情報提供を行っている。
  - ・薬物乱用の低年齢化を危惧し、「医薬品」や「違法薬物」における早期教育は重要。
4. 【基調講演】医薬品の適正使用と薬物乱用防止 国立精神・神経医療研究センター  
依存性薬物研究室室長 船田 正彦
  - ・覚せい剤使用で2回目の逮捕となった芸能人のニュースは、薬物依存症から脱却が困難な事例。
  - ・医薬品の逸脱した使い方が「薬物乱用」とすると、薬剤師の力が発揮できるポイントである。
  - ・医師、薬剤師、患者の関係性が重要。医薬品の適正使用には切り口はたくさんあり、医薬品の安全性、有効性を高めるためには残薬問題が大きく関与している。適正使用は薬乱防止の大きな入口。
  - ・2018年の薬物で入院中の患者データによると、主たる薬物は1位：覚せい剤、ついで2位：睡眠薬・抗不安薬の医薬品である。
  - ・10代は市販薬が多く、年代が上がるにつれ睡眠薬や抗不安薬の医薬品が増える。
  - ・乱用医薬品のトップ3は、1位：エチゾラム、2位：フルニトラゼパム、3位：トリアゾラム。
  - ・市販薬においては、圧倒的にブロン錠（咳止め）がトップ。
  - ・市販薬ブロンには主にジヒドロコデイン、メチルエフェドリン、無水カフェイン、マレイン酸クロルフェニラミンの4つの成分が入っているが、薬剤の組み合わせと依存性の関係性も検証中。
  - ・患者と対話より頻繁に薬剤を大量に購入していないかのチェックや、おくすり手帳の確認、購入目的の確認などの「声掛け」も抑止力になる。薬剤師は薬物依存回復の支援者としての役割がある。
  - ・精神保健福祉センターや保健所などの専門機関の窓口とも連携を取ることが必要。
  - ・薬物依存はなかなか治らない＝繰り返してしまう。よって、まずは、「決して薬物に手を出さない」ということを子どもたちに伝えることが大事である。
5. 【活動実践報告】  
〈デモンストレーション〉 小学校における『おくすり教育』&『薬物乱用防止教育』  
小平第十小学校担当学校薬剤師 小林 弘美  
（パワーポイントを使用し説明）
  - ・4年生でおくすり教育、5年生で薬物乱用防止教育、6年生でも薬物乱用防止教育を実施。

【4年生】

  - ・「薬の正しい使い方」の授業を養護教諭とともに進めていった。
  - ・「体には自然治癒力が備わっており、薬は体を健康な状態に戻すための助けになるもの」と説明。
  - ・クイズや実験を導入し児童参加型の授業。視覚的にもインパクトのある実験は効果的。

【5年生】

  - ・4年生で学んだ「薬の正しい使い方」を振り返り、「薬とはどういうもの」かを思い出してもらった。
  - ・目で見た物を言葉で発するまでの脳の仕組みや働きなど、図を用いて解説。感情表現、運動能力、記憶力、想像力、思いやりなどの例を挙げ、「脳はスーパーコンピューターである」と解説し、みんなが持っている脳の素晴らしさを伝える。
  - ・脳を破壊してしまう「薬物」の恐ろしさを様々な事例を写真や絵を使い表現し伝える。また、「薬物依存症の恐ろしさ」や「フラッシュバック」の仕組みを図で説明。
  - ・薬物に誘われたときには、少し考え「これはおかしいぞ」と気付いてほしい。
  - ・「夢」をテーマに、子どもたちに自己肯定感を持ってもらうことで薬物に近寄らないことになる。

## 【6年生】

- ・昨年までは警察が担当していたが、今年度から6年生も依頼された。
- ・5年生と同じく導入は「薬の正しい使い方」の振り返り、5年生では触れなかった「血中濃度」「血液脳幹門」についても説明。「タバコ」と「アルコール」についての話もした。

### 〈活動報告①〉

豊島区学校薬剤師会会長 林 敦子

- ・前会長の田中俊昭先生が、20年前から「お薬授業の必要性」を発信していたが、浸透せずにいた。小平市は全会員がお薬授業を実施していることを見習いたいと考えている。
- ・小学校から6年生対象「薬物乱用防止教育」の要請があり、実施した。2年目には「薬の正しい使い方」を終えた後に、「薬物乱用防止教育」を実施した。
- ・平成30年には加藤哲太先生を講師に招き、学薬会員向けの「薬教育」の講習会を開催した。
- ・中学校での「お薬教育」は保健体育教諭、「薬物乱用防止教育」はライオンズクラブまたは薬物乱用防止協議会が実施していた。見学してみると、大麻やドーピングなども盛り込みたいと感じた。
- ・養護教諭と密に連携し、お薬教育の必要性を他校へも広げてくれることを期待している。

### 〈活動報告②〉

小平第三小学校担当学校薬剤師 向田 慶子

- ・学校薬剤師を始めて4年目。1年目は加藤先生の指導を受けた。
- ・養護教諭が主導で、薬剤師が入っていく形態。養護教諭からは子どもたちへの対応なども学んだ。
- ・事前の打ち合わせを基に、養護教諭が「指導案」を作成。養護教諭と薬剤師の役割分担、ねらい、持ち時間、また、細かな留意点や確認事項が記載されている。
- ・授業の最後に作成した「ワークシート」で授業の振り返り、同時にアンケートも記入してもらう。
- ・養護教諭からは「こちらのねらいに薬剤師から伝えたいことが反映され、良かった。」との感想をもらった。協働の「お薬授業」には、学校薬剤師と養護教諭との信頼関係が築けているかが重要である

### 〈活動報告③〉

小平市学校薬剤師会副会長・小平第六中学校担当学校薬剤師 大原 美夏

- ・中学校では指導要領にお薬授業が入っているので、「保健体育」の授業として実施している。
- ・2014年は体育館に1,2年合同で450人で実施し、2015年、2016年は1年生のみ200人対象で実施。
- ・2017年では少人数で実施することを提案し、1年生の男女に分け約30人ずつを3回ずつ、計6回の授業を実施。しかし、大人数の時と少人数の時では反応に差があり、途中で「グループ学習形式に変更」という許可を取り実施。それ以降はこの形式を採用している。
- ・「薬のリスクをなくすためには？」では、小学校の「お薬授業」の成果か期待通りの回答が得られた。
- ・「Q&A」方式で、薬の空き箱や添付文書（注意書き）を確認することの大切さを学習。

\*授業後にアンケートを実施した。次のようなことがアンケート集計から分かった。

- ①「小学校お薬授業」は3割が「覚えている」、「授業の途中で思い出した」が5割くらい。繰り返し学習は大切である。
  - ②授業の理解度は、体育館にて大人数で実施した場合よりもグループ学習の方が良く、同じグループ学習でも男子は女子と混合だと集中力が下がる傾向にあり、少人数かつ男女は別の方が望ましい。
  - ③「今日の内容で印象に残ったことは何？」では、時間を長くとり説明したことが上がる。
  - ④「もっと知りたいこと」では、最近話題になっている「ドーピング」や「薬物」への関心が高い。
- ・今後も教職員の意見を取り入れ、試行錯誤を重ね、よりよい授業を実施していきたい。

### 〈統括〉

日本くすり教育研究所代表理事 加藤 哲太

- ・薬剤師は学校教育に入らなければならない。現状では、小学校は「薬物乱用防止教育」、中学校では保健体育授業に関わっている。総活や総合学習において様々なサポートし情報を流すこともできる。
  - ・薬剤師が進めていくパターンとして、小林さんのように継続して行っていることの強さで「去年も話ししましたね。覚えていますか？」という積極的な問いかけもできる。また大原さんの場合のように、どんどんとアイデアを提案し進めていくのもいい。
  - ・向田さんのように、薬剤師がチームティーチングに入るパターンでは養護教諭の資質もあるので、どこでも同じように出来るわけではないだろうが、チームワークの素晴らしさを感じた。
  - ・経験者は初心者をサポートを積極的にしてあげてほしい。
  - ・今回の会は、日本くすり教育研究所から「啓発事業」という名目で助成金がおきている。
  - ・経験者の方も新しい試みを取り入れて授業を実施してほしい。
  - ・日本くすり教育研究所のHPに授業計画などもアップしていきますので活用してください。
- ・フリートーク 現状の課題とその推進のために（時間が足りず出来ませんでした。）

### 閉会の辞

啓発事業企画運営委員 中島 正登

『おくすり教育検討会（拡大版）』

令和2年2月13日

於：明治薬科大学サテライトキャンパス



## 参加者状況

所 属	小平	西東京	東久留米	東村山	小金井	豊島	西武	教育関係者	多摩小平 保健所	国立精神神経医療 研究センター	無所属	合計
参加者	16	3	4	5	3	1	1	2	1	1	1	38
アンケート回収枚数	12	1	3	5	3	1	1	2	1	0	1	30

## 1 本日の“おくすり教育検討会（拡大版）”で参考になったことは何ですか。（複数回答可）

所 属	小平	西東京	東久留米	東村山	小金井	豊島	西武	教育関係者	多摩小平 保健所	国立精神神経 医療研究センター	無所属	合計	
教材について	5	1	1	2	0	1	1	1	0	0	1	13	43.3%
授業の進め方	7	1	2	5	1	1	1	1	1	0	1	21	70.0%
導入へのアプローチ	2	1	0	1	2	1	0	1	1	0	0	9	30.0%
マンパワーの確保	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	36.7%
各地での取り組み	4	0	1	1	3	0	0	1	0	0	1	11	36.7%
“おくすり教育”の課題	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	4	13.3%
その他	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	6.7%

その他として ・大麻とか現況  
・小平の先生方の活動報告

## 前回（令和元年9月12日）の“おくすり教育検討会（拡大版）”への参加者状況

所 属	小平	西東京	東久留米	東村山	小金井	豊島	西武	教育関係者	多摩小平 保健所	国立精神神経医療 研究センター	無所属	合計
参加した	9	0	3	4	1	1	—	0	1	1	0	20
参加しなかった	3	1	0	1	2	0	—	2	0	0	1	10

## 2 今後の“おくすり教育検討会（拡大版）”に期待する内容は何か。（複数回答可）

所 属	小平	西東京	東久留米	東村山	小金井	豊島	西武	教育関係者	多摩小平 保健所	無所属	合計
教材について	9	0	0	3	0	0	1	1	0	0	14
授業の進め方	9	1	1	4	2	0	1	2	1	0	21
導入へのアプローチ	3	1	0	1	2	0	0	0	1	0	8



所 属	小平	西東京	東久留米	東村山	小金井	豊島	西武	教育関係	多摩保健所	無所属	合計
マンパワーの確保	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
各地での取り組み	4	0	1	1	1	0	1	1	1	0	10
“おくすり教育”の課題	2	0	2	1	2	0	0	1	1	1	10
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

その他として ・実践活動報告（今回のような…）

### 3 ご意見、ご感想などございましたらぜひお聞かせ下さい。

- ・ 休日に行って欲しい。
- ・ 各地域でそれぞれの進め方をしていることが分かりました。ありがとうございました。
- ・ 学校薬剤師が担当校で各自薬物乱用防止教育をするようになった。
- ・ 小平六中の先生の取り組み（グループ学習）について参考になりました。  
授業後アンケートの集計もされていてすごいと思いました。
- ・ 他校がどのように授業を進めているのか、とても参考になりました。  
参加させていただくたびに、小平はすごい！と感心してしまいます。
- ・ 色々と工夫されている様子が分かり、見習いたいと思います。  
大原先生の報告はデータも見やすく役に立ちました。
- ・ 各地での取り組み、小、中での取り組み、いろんな取り組みが聞けてとても勉強になります。
- ・ なかなか担当校で実施できませんが、今日の話をも参考にしたいと思っています。
- ・ 場違いな活動報告で申し訳ございませんでした。  
小平の先生方を目標にがんばりたいと思います。  
加藤先生、福田先生、これからどうぞご指導を宜しくお願いします。  
船田先生のご講演、いつもとても分かりやすく、勉強になりました。  
本日は本当にありがとうございました。  
教育長、保健所の方も最後まで…すごい！と思いました。
- ・ 皆様の熱のこもった講演をうかがい「朱に染まらないうちに」教育することの大切さ、むずかしさが分かったような気がしています。
- ・ 取り組み事例を、また教えていただきたく思っております。
- ・ 本日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。  
学校薬剤師さん方の視点から授業づくりについて学ぶことができ、とても勉強になりました。  
連携を密にしてより良い実践ができるようにしたいと思います。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございます。

